

令和6年度総会が開催されました。

令和6年5月12日（日）中央公民館で令和6年度総会が開催されました。令和5年度事業報告と令和6年度事業案を満場一致で承認して頂きました。また、西学習部会長による「AMUのホームページ」の説明がありました。

AMUのホームページが充実し、AMUの活動を知って頂く機会が多くなり「ホームページを見ました。」とイベントに参加し会員となった方もいらっしゃいました。また、会員の牛山さまに作成して頂いたAMUのロゴの説明をさせて頂きました。このAMUのロゴにある多彩な色と六文銭は多様性の象徴であり、様々な色（国籍、人種）の方々が共に生き、色豊かな住みやすい社会が出来るように今年度もAMUの事業を行っていく事を心新たに決める事が出来ました。ロゴを作成して頂いた牛山さまに感謝です。



信州ハム 25期生事前研修 講演

令和6年4月24日（水）、上田市の「国際経営支援事業協同組合研修センター」にて、信州ハム株式会社第25期技能実習生のための事前研修会が開催されました。今回の研修会では、上田市多文化共生推進協会の母袋創一副会長が講師として招かれ、技能実習生たちに向けて上田市および塩尻地区の歴史、風土、産業などについて幅広くお話しいただきました。当日は、男性5名、女性8名、計13名の実習生が参加。母袋副会長の温かみある語り口とともに、地域の魅力や文化について知る貴重な機会となりました。講演のテーマは「ようこそ長野県上田市へ」で、地元の歴史や



地域の産業の成り立ちなどについて具体的な事例を交えた解説が行われ、実習生たちは真剣に耳を傾けていました。この研修は、地域との関係を深め、実習生たちが日本での生活をより豊かなものにするための重要な一環として実施されました。この研修を通じて、母袋副会長には、今後も地域と実習生との交流を促進し、共生社会の実現に向けた取り組みを一層進めていただくことが期待されます。参加者からは「上田市について知ることができ、日本での生活が楽しみになった」などの声が寄せられました。

紙芝居を楽しむお話会

令和6年6月16日（日）「紙芝居を楽しむおはなし会」が、上田情報ライブラリーで開催されました。このおはなし会はAMUと上田情報ライブラリーが共同開催する企画で、上田市の外国籍市民が豊かな日本語に触れる場を提供するとともに、日本人を含む地域住民が絵本や

紙芝居を通じて異文化理解について学ぶ機会になることを目指しています。今回の読み手は、AMUの安藤会長、マレーシア出身のキムさん、そしてニョロニョロの会の皆様です。紙芝居舞台の幕が上がり、拍子木による「カチカチ」の合図でいよいよ紙芝居が始まります。最初にAMUの安藤会長が演じてくださった「ねずみのうちわ」という紙芝居では、配布されたうちわをお話に合わせてみ

んなで仰ぎます。うちわの心地よい風と共に、ストーリーに出てくるねずみと力を合わせている気持ちになってきました。次にマレーシア出身のキムさんは、流暢な英語でバイリンガル絵本の英語パートを読み聞かせしてくれました。主人公に幸運(fortunately)と不運(unfortunately)な出来事が次々と起こるストーリーで、それに合わせて「そいつはよかった」「なんてこった」とみんなで掛け声をかけて楽しみました。日本語と英語のどちらでも楽しめるお話でした。

最後にニョロニョロの会の方が、紙芝居を2作品演じてくれました。声の抑揚と読むスピードの緩急が素晴らしかったです。参加者全員がお話に引き込まれてしまい、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。

上田情報ライブラリーを含め、市内の図書館には数多くの多種多様な本や絵本があります。今回の企画をきっかけに、国籍を問わず少しでも多くの市民の皆様が図書館を利用いただき、日本語や異文化理解に触れる機会が増えることを望みます。

野外交流会



令和6年7月6日（土）武石観光センターにおいて、外国籍市民と日本籍市民が一堂に会して、和やかなバーベキューパーティーが開催されました。このイベントには、8か国から60人の参加者が集まり、異文化交流と友好の輪が広がる素晴らしいひとときとなりました。参加者たちは、お肉、ソーセージ（信州ハム佃さんからのご寄付）、また緑、黄色、オレンジ、紫といった鮮やかな野菜を5グループに分かれ頂きました。

バーベキューが終わると半田さんによる「ジャンケンゲーム」です。みんな大きな声で「ジャンケンーポイ！」と大いに盛り上がりました。グループ対抗のゲームも行われ、参加者のみなさんは初めての顔ぶれであるにも関わらず一丸となりとても盛り上がりました。「美味しいお肉や焼きそばを食べ、また他の国の人々とも交流できとても楽しかった」という外国籍の方の声や「普段なかなか接することのない外国の方々や友達になれて、貴重な体験でした。」という日本籍の方から様々な声を頂きました。

また、この日は母袋副会長の誕生日でもありました。サプライズで誕生日の歌を参加者皆で歌い、バスを下車後マレーシア籍のキムさんから花束の贈呈もありました。

このようなイベントを通じて、異文化理解と地域の絆が深まることを願っています。武石観光センターの皆様に感謝致します。

教育・進学ガイダンス

令和6年7月21日（日）市民プラザ・ゆうにて、「教育・進学ガイダンス」が開催されました。このイベントはAMUと長野県国際化協会（ANPI）が共同で開催し、日本語を母語としない外国籍及び外国にルーツを持つ子どもとその保護者に、日本の小中学校の様子や外国籍児童・生徒への支援、高校やその先の進学について、母語での通訳を介し分かりやすく情報提供することで、日本の教育制度や学校、進路に対する疑問や不安を解消し、それらについて正しく理解していただくことを目的に開催しています。

前半はAMU主催の「教育ガイダンス」です。外国籍及び外国にルーツを持つ子どもたちが日本語で作文発表を行う「子どもお話大会」からスタートしました。今年は、市内の小中学校で日本語を学習している13名の子どもたちが出場し、日ごろ頑張っていることや好きなこと、将来の夢など、それぞれ違ったテーマの作文を参加者の前で堂々と発表していました。

お話し大会の後、AMUの安藤会長と上田市教育委員会の担当者より日本の小中学校についての説明がありました。参加者の中にはこれから初めて日本の学校に子どもを入学させるという方もいて、皆さん熱心に聞いていました。

後半は ANPI主催の「進学ガイダンス」です。冒頭では、中学生の頃AMU の日本語教室にも通っていた外国籍の高校生から、「高校生の経験談」ということで、自身が高校入試で苦労したことについて発表していただきました。

続いて、長野県教育委員会の担当者から高校進学について、東信教育事務所、市内の高校の担当者から高校進学に関するアドバイスや高校の様子について説明していただきました。

参加者からは、「説明や翻訳された資料が分かりやすかった」、「日本の学校や進学について具体的なイメージが持てた」など、好評の感想がよせられ、「自分で進学に関する情報を集めたいと思う」と自身の子どもの進学について前向きな考えになった参加者もありました。上田市内の小中学校に通う外国籍児童・生徒は増加傾向にあります。このイベントを通し少しでも多くの子どもと保護者に、日本の教育制度について正しく理解していただきたいと願っています。



第53回 上田わっしょい

AMU は毎年上田市の夏祭り「上田わっしょい」に参加しています。本年度も第53回目の「上田わっしょい」に「AMU インターナショナル連」として参加しました。集合時間になると参加者やスタッフが続々集まってきて、AMU の狭いフロアは大勢の人数であふれてきました。午後6時になったので、AMU を出発して踊りのスタート地点(海野町の端、横町近く)に向かいます。全員揃ったのでスタート前で記念撮影。AMU では、赤の法被と色とりどりの浴衣を用意して希望者に着て貰っています。民族衣装で踊る参加者もあります。6時半に横町のスタート地点を出発した踊り連は「横町→海野町交差点→鷹匠町→海野町交差点→原町」と進んでいき夜も更けてきました。原町で終了時間(8時半)となりました。

皆で最後に記念撮影をして、安藤会長の挨拶で解散となりました。外国籍市民と AMU・上田市民の連携が深まった一日でした。



第1回ワールドキッチン～インドネシア編～

令和6年8月11日(日)、市民プラザ・ゆうにて「ワールドキッチン」が開催されました。今回は、インドネシア料理です。講師はレイナ 百合子 ユリアナさん。大勢の参加者が集まり、インドネシアの伝統的な料理と文化を学びながら楽しいひと時を過ごしました。

このイベントでは、インドネシアの代表的な料理を学ぶだけでなく、インドネシアの文化や宗教なども学びました。インドネシア特有のスパイスを使った本格的な料理の数々に参加者たちは興味津々。参加者全員で作り上げた料理は、インドネシアの風味豊かな食文化を感じさせるものばかりでした。

料理を作りながら、参加者同士が和やかに交流し合う場面も多く見られました。初めてインドネシア料理に挑戦する方も多く、作り方を学びながら楽しむ雰囲気の中で、皆が親しみやすく料理を共有しました。

「普段自分ではなかなか作ることのない料理を、こうしてみんなで楽しく作ることができてとても良かったです。インドネシア料理のスパイスの使い方や調理法を知る良い機会になりました」との感想も寄せられ、イベントは大成功に終わりました。



レイナ 百合子 ユリアナさんによる インドネシア料理

うえだ多文化交流フェスタ 2024

AMUにとって1年で最大のイベント「うえだ多文化交流フェスタ」が9月8日(日)に上田市中央公民館で開催されました。

今回は昨年よりも規模を拡大し、1階展示室と 3階大会議室を会場としました。1階の展示室では、パネルやパンフレットを用いて世界各地の文化紹介や多文化共生関係団体の活動紹介をする展示ブース、日本の「浴衣」やネパールの「サリー」の試着体験コーナーなどが並び、様々な角度から上田市における「多文化」を体感することができる内容となっていました。

昨年に引き続き出展していただいた、AMU の日本語学習支援ボランティアのブースでは、習字体験ができ、来場者は実際に半紙に字を書いて日本の文化を体験していました。





3階の大会議室は、1階と同様の展示ブースと、世界各地の歌や踊り、様々な楽器の演奏などのステージパフォーマンスを楽しむ内容となっていました。ステージパフォーマンスで今回初出場となる二胡奏者の田村さんには、30分にわたり様々な中国の曲を演奏していただきました。二胡の表現力の豊かさ、日本の楽器にはない優雅な音色に、思わず酔いしれてしまいました。

毎年参加して下さる団体の皆さんも、この日のために練習してきた素晴らしい発表をしてくださいました。お昼の時間帯には世界各地の郷土料理の試食配布もありました。毎年大人気の試食配布ですが、今年は「世界のお菓子」をテーマに 5 つの国と地域のお菓子の詰め合わせの配布があり、とても好評でした。

このイベントは多文化共生の基礎となる、外国籍住民と地域住民の交流の場づくりを目的として開催しています。今年は約200人の来場者の皆さんが来てくださり、展示ブースや試食、ステージパフォーマンスを通して多角的に異文化に触れ、国際交流をしていただきました。来場者や関わっていただいた皆さんにとって、このイベントが多文化共生について考えるきっかけとなることを願っています。

うえだこうとうがっこう 上田高等学校FW

令和6年9月12日(木)駅前ビルパレオにて、上田高校1年生による「多文化共生」に関する課題発表会が行われました。本発表会は、1年生が取り組んできた総合的な探求の時間の一環として実施され、地域社会や日本全体でますます重要性を増している「多文化共生」について、外国籍の方へのインタビューや資料を基に自ら考えを深めました。

発表会では、まず田中琳副会長から「多文化共生とは何か」についてご講演いただきました。田中さんは、自身の経験を交えながら、異なる文化を持つ人々が共に暮らす社会の意義や課題についてお話され、生徒たちにとって貴重な学びの機会となりました。田中具体的アドバイスや事例が紹介され、多文化共生に対する理解をさらに深めることができました。続いて、生徒たちが、自分たちが行った調査やインタビューの結果を元にした発表を行いました。外国籍の方との対話を通じて、生徒たちは多文化共生の現実や、異なる文化との接し方について学び、多様性を尊重することの大切さを実感した様子でした。本発表会を通して、上田高など学校の生徒たちは、多文化共生が単に異文化を認めるだけでなく、相互理解や協力を通じて豊かな社会を築くことの重要性を学びました。今後もこの経験を生かし、多様性を尊重しながら、地域社会に貢献していく姿勢を持ち続けていくことでしょう。

うえだ かんご せんもんがっこう はぐく こうぎ および 上田看護専門学校「育みⅢ 講義及びFW」

令和6年9月18日(水)上田看護専門学校にて安藤会長と田中琳副会長より、看護の重要性やグローバルな医療人材の育成についての講演が行われました。お二人は、国境を越えた医療の連携と相互理解の大切さを熱く語り、学生たちに多くのインスピレーションを与えました。10月12日(土)19日(土)と 2回に渡り、様々なバックグラウンドを持つ講師の方達による講義も行われました。ルイさんは、インドネシアの医療現場での経験をもとに、現地の医療システムや医師の役割について講義しました。特に、医師が地域コミュニティで果たす役割についての話は、学生たちに新たな視点を提供しました。スティベンさんとウイナワティさんは、インドネシアにおける患者とのコミュニケーションや文化的背景の重要性について話しました。特に、多民族国家であるインドネシア特有の課題と、それに対する看護のアプローチについての講義は非常に興味深いものでした。

またタバレスサナエさんは、ブラジルの医療制度や地域看護の取り組みについて講義を行いました。ブラジルでは予防医療が特に重視されており、その実践例を具体的に紹介しながら、日本の看護との違いについても語りました。講義後には、学生たちから多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。参加した学生たちは「異なる国の医療や看護の実情を知ること、日本の看護を見直す良いきっかけになった」と感想を述べていました。今回の講義は、学生たちが国際的な視野を広げ、異文化理解を深める貴重な機会となりました。今後も国際的に活躍できる看護師の育成を少しでもサポートできるよう、このような講演会や交流の機会を積極的に提供していきます。



ぼうさい き そ こうざ 防災基礎講座

令和6年9月29日(日)中央消防署にて「外国籍市民のための防災基礎講座」が開催されました。安藤会長の挨拶の後、上田市危機管理防災課の担当者から上田市で発生する災害と避難方法・非常食などの説明があり、広報課の担当者から上田市の多言語メールの説明の後で参加者の携帯に実際に登録してもらいました。上田市では避難所用に水や食料の他に簡易ベッドや簡易トイレなども用意してあると説明して貰いました。

その後、司令室の見学(撮影禁止、いつもは見学も不可の場所です。)をしてから外に出て火事になった時の「煙体験」と「化学車」の説明を受け、最後に「はしご車」の説明してもらいました。説明の途中で、「救急車」が実際に出動していました。日本では「救急車」は無料で利用できますが、海外の多くの国では、有料サービスなのだそうです。また「はしご車」は上田市に2台しかなく、はしごは 35メートルの高さまで伸びるそうです。最後に「はしご車」を実際に操作して、はしごを伸ばして貰いました。講座の内容が豊富であつという間に2時間が経過しました。多岐に渡っての講座になりましたが、学んだことを少しでも実践し災害に備えて頂きたいと思いました。

いぶん かり かい こうえん かい 異文化理解講演会

令和6年10月20日(日)、西部公民館にて、小川康さんによる異文化理解の講演会が開催されました。小川さんはチベット医としての豊富な経験を持ち、「なぜ君はチベットに惹かれるのか」という標題で、チベットの文化や日常生活、ことわざを通じて多文化共生や異国での暮らしについて語りました。

講演の中で、小川さんはチベット文化の奥深さを紹介しました。彼が実際にチベットで経験したエピソードを交えながら、「簡素な生活の中にも豊かな精神性が宿る」というチベットの価値観を紹介。

さらに、小川さんは異国での生活について、自身の経験を率直に語りました。言葉や文化の壁に直面した中で、いかに現地の人々と交流し、理解を深めたかについてのエピソードは、異文化理解の重要性を改めて考えさせるものでした。講演終了後には、参加者同士や小川さんとの意見交換の場も設けられました。参加者たちは「初めて知るチベット文化に心が開かれるようだった」「日常の中でもっと異文化に目を向けたい」といった感想を述べ、非常に有意義な時間を過ごしました。この講演会は、地域の人々が異文化への理解を深めるだけでなく、自身の文化や生活を見直す貴重な機会となりました。

かいいん さんかしゃこうりゅうかい 会員・フェスタ参加者交流会

令和6年10月27日（日）中央公民館にて「会員・フェスタ参加者交流会」を開催しました。この交流会は、9月8日（日）に行われた「うえだ多文化交流フェスタ 2024」に出展・出演した方々と、当協会の会員が集まり、楽しいひとときを共有する毎年恒例のイベントです。今回も、多文化共生をテーマにしたフェスタの後、関わった人々が再び集まり、親睦を深める貴重な機会となりました。安藤会長の開会の挨拶に続き、会食の時間が設けられ、フェスタで活躍された出演者や出展者の方々から、当日の感想や経験を共有していただきました。各参加者の言葉からは、文化の違いを超えて交流できた喜びがひしひしと伝わってきました。その後、インドネシア料理や寿司、ピザなど、さまざまな国の軽食が並び、参加者は思い思いに食事を楽しみながら交流を深めました。多様な料理が揃う中、初めての料理に挑戦する姿も見られ、フェスタでの文化的な体験が再び呼び起こされました。



「フェスタ 2024」に出演された方々や出展者、そして日頃から当協会を支えてくださる会員の皆様との交流が生まれ、地域における多文化共生の輪がさらに広がった1日となりました。この交流会は、単なる楽しいイベントにとどまらず、「うえだ多文化交流フェスタ」を通じて芽生えたつながりを深める場でもあります。参加者がそれぞれの経験を共有し、新たな視点をを得ることで、互いの文化への理解がより一層深まりました。「来年もぜひ参加したい」という声が多く寄せられたほか、この交流会をきっかけに新たに「会員」となられた方もいらっしゃいました。次回の開催に向けた期待も高まっています。今回の交流会を通じて、多文化が交じり合う楽しさや異文化理解の重要性を再認識することができました。会場に集まった皆様の笑顔や会話一つひとつが、地域における多文化共生の輪を広げる重要な一歩であったと感じさせられる1日となりました。今後もさまざまな活動やイベントを通じて、多文化共生を推進してまいります。

かいいんけんしゅうかい 会員研修会

令和6年11月18日（月）に松本市へ行ってきました。研修では、松本市独自の取組みである「松本市子ども日本語教育センター」へ。このセンターは松本市田川小学校の中にあり、市内の小中学校へ「日本語教育支援員」を派遣しています。AMU でも課題としている「小中学校の児童生徒への日本語教育支援」をテーマに研修を受けてきました。まずは田川小学校の日本語教室の授業を見学させていただき、その後、事前に提出した「AMU からの質問書」に沿ってセンターの皆さんから取り組みの説明がありました。上田市は一部の学校に設置された日本語教室を中心とした日本語教育支援を行っています。松本市では要請に応じて市内のあらゆる学校にセンターから支援員を派遣するシステムを採用しています。児童生徒はどの学校へ行っても、日本語の初期指導、日本語学習指導を受けることができます。上田市との支援体制の違いに驚きました。

がいこくせきしみるん てん 外国籍市民のアート展



11月30日（土）から12月6日（金）まで上田市サントミューゼ アトリエで開催された「外国籍市民のアート展」は、200人あまりの来場者を迎え、無事に終了しました。インドネシアやブラジルなど、多国籍の外国籍市民アーティストが手がけた作品を一堂に集めた本展で特に注目を集めたのは、今年初めて展示された陶芸作品です。繊細で独創的なデザインは、訪れた方々の目を引き、その技術と美しさに感嘆の声が上がりました。

このアート展で、外国籍のアーティストが自分の作品を展示できた事で自信につながり、活躍の場を広げてくれる事を期待しています。

ワールドキッチン ～日本料理編～

令和7年1月19日（日）、市民プラザ・ゆうで「第2回ワールドキッチン」が開催されました。

今回はドイツ、インドネシア、イスラエル、マレーシア出身の参加者が集い、料理を通じて日本文化や日本語を学ぶ貴重な機会となりました。手巻き寿司では、卵焼き、キュウリ、マグロといった具材を使い、自由に自分好みの寿司を作る体験が人気を集めました。「巻く方が難しいけど楽しい!」と、初めての挑戦に笑顔があふれました。このイベントには、「にほんごアムアム」の生徒さんたちも参加し、料理を教えながら日本語でのコミュニケーションもサポートしました。料理を通じて言葉を学ぶという独自の取り組みを行っている AMU は、まさに交流と学習が一体となった団体であり、参加者にとっても特別な体験となりました。また、多文化共生に関心を持つ小学生や中学生も参加し、外国籍の方々と積極的に交流。「相手の文化を知ること、自分の文化の魅力にも気づけた」といった感想も寄せられました。



にほんごしえんしゃようせいかうざ 日本語支援者養成講座・ステップアップ研修

令和6年度の養成講座は、実際に現場で日本語を教えているボランティアを対象に3回開催しました。講座では荻野先生がインドネシアの介護実習生をオンラインで指導している動画を事前に見ての感想や意見を話し、先生と日本語教室のあるべき姿について話し合いました。その中で重要と感じたのは、①日本語を教えることと、日本語教室の運営は違う。②日本語を教える時のキーワードは、学習者を「あきさせない」こと、私が「話すぎない」私が「教えすぎない」、相手の自主性を引き出す指導が大事ということでした。講習の内容は実際の支援に役立つことがたくさんありました。また役立てていかなければいけないと思いました。3回にわたって熱心に指導してくれた荻野先生に感謝です。